

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「パートの正社員登用」
- 2) 「山あいにとれとれ」
- 3) 「変わる食文化」
- 4) 「OLと学生、昼食の取り方に違い」

---

1) 「パートの正社員登用」

東急ストアは7月に東京急行電鉄の完全子会社になり立て直しを急ぐ中、現場活性化の切り札は今春導入したパート・アルバイト社員の正社員登用制度だ。

パートが従来の勤務シフトのまま正社員になれるという柔軟な改革で、現場社員の士気を鼓舞している。非正社員を正社員に登用する制度は他のスーパーでもあるが、東急ストアはこの柔軟さが特徴だ。パート・アルバイトは正社員になるとき、「従来と同じ」か「フルタイム」のどちらかから選択でき、勤務地も一定の範囲から選べる。

また、育児機関の短時間勤務を子供が中学生になるまで認めるなど、育児支援も手厚い。

正社員になったことでまかされる仕事も増え、意欲もわく。パート・アルバイトから正社員になった社員と、新卒の社員では評価基準も同じで、パートなどの時からは年収も100万円以上上がる。

景気減速の中、スーパー業界でも生き残り競争が厳しいが、現場の活性化にこの登用制度が一役買うことがあるだろう。

---

2) 「山あいにとれとれ」

兵庫県漁連による「漁連の魚屋 とれぴち ひょうご カンカン部隊」が、漁獲高の減少や景気悪化などの打撃を受ける中、魚のデザインが描かれたトラックを使い、“出前”という自助努力で売り上げを伸ばしている。

水産物の消費拡大などを目指し、4年前から山あいの農産物直売所での移動販売を始めた。県内各地の漁協が水揚げした魚介類を載せて、月曜から土曜日まで三木、三田、加西各市などで販売している。

三木市の「JA 兵庫三木みらい館」の一角では、マナガツオやグレ、アカガレイなどスーパーではあまり見かけない魚を含め20種以上の魚介類が並ぶ。漁連職員らが直接調理法などを教えることで、販売につなげている。運営する県漁連水産加工センターは「多くの種類の魚を安定した価格で売ること、漁師の方にも喜ばれている」という。

生産者と消費者の距離が近くなれば、今まで気がつかなかったこと（種類・食べ方・規格外の多さなど）にたくさん気付く。

しかも輸送距離の短縮で鮮度も保たれ、今まで商品にならなかったものも買ってもらえるなど、両者にとってメリットが増えることからこうした取り組みが増えてきている。

今後、これらが「話題」ではなく「当たり前」になり、さらなる好循環が生まれることを期待したい。

---

### 3) 「変わる食文化」

食にお金と時間をかけることを避けたいという価値観が日本の若い世代に広がっている。

生活の中での『食』の優先度が低くなっており、「個食」や「孤食」傾向も進んでいる。

20歳代男女へのアンケートで、今後積極的にお金をかけたいものの一位は「貯金」で、「国内旅行」「ファッション」等を大きく下回り「外食」は7位だ。

日本における「食べること」への関心は、味や料理だけでなく、食べ方や表現など、多様な文化をもたらしてきた。例えば、日本語には「サクサク」や「とろける」のような「食感表現」が445語もある。これは、イギリスの77語、ドイツの105語と比べてはるかに多く、食感に対する日本人の繊細さを反映していることが伺える。

しかし、その食感や味覚の表現を理解する人も最近では少なく、あるアンケートで「滋味（栄養豊富でおいしいこと）」や「馥郁（よい香りが漂う様）」等の言葉の意味を分かる人は20%を切った。

ファーストフードの流行に危機感を持ったフランスでは、国をあげた味覚教育を1990年代に始めた。これにならい、日本でも食育の場で実践が始まっている。子供のころからの『食』に対する感覚や感性を養うことが大切だという声も識者の間で徐々に高まっている。

『食』は、生命を維持するための栄養補給、味わうという感覚的な楽しみ、人と食卓を共にする喜びなどが複合的に絡み合った文化である。それらの何に重きを置くかは様々だが、次世代にはこの食の多様性を伝えていかなければならない。

---

### 4) 「OLと学生、昼食の取り方に違い」

校内と社内での昼食の意識が違ってきているようだ。

食料品の高騰から食費の削減に繋がるため昼食の外食が減ってきている。“デコ弁”とも呼ばれるおかずやご飯に一手間かけた色とりどりの自作弁当をもってくるOLが増えており、同僚と一緒に食べることから少しでも見た目をよくしようと工夫を凝らしている。

昼休みが定時であり、会話のネタとしても盛り上がることもあり互いに見せ合いながら弁当を食べ、社内食堂でも複数人で昼食時間を過ごしている。

一方、大学生など学生たちの間では、友達同士でも授業にバラつきがあり昼食時間が合わない日も少なくはない。弁当を持参する時でも学生食堂を利用するのが一般的だが、一人で食事をしている姿を友達に見られたくない為にひっそりとひと気のない場所を探して食べる傾向があるようだ。

友達の少ない淋しい奴だという風に見られている気がして、中にはトイレの個室にこもって弁当を食べる学生もいる。他学科の生徒など他人からの目も気になるようだ。